

貯 法：気密容器、遮光保存、室温保存  
 使用期限：外箱に表示

持続性選択H<sub>1</sub>受容体拮抗剤  
 日本薬局方 エバスチン口腔内崩壊錠

# エバスチンOD錠5mg「ZE」 エバスチンOD錠10mg「ZE」

EBASTINE OD TABLETS 5mg「ZE」・OD TABLETS 10mg「ZE」

	OD錠5mg	OD錠10mg
承認番号	22000AMX00393	22000AMX00392
薬価収載	2008年7月	
販売開始	2008年7月	

**【禁忌（次の患者には投与しないこと）】**  
 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

## 【組成・性状】

販売名	成分・分量 (1錠中)	剤形	色調	外形・サイズ(識別コード)
エバスチンOD錠5mg「ZE」	エバスチン 5mg	素錠	淡紅色	 直径：6.5mm 厚み：2.3mm 重量：100mg (ZE15、5)
エバスチンOD錠10mg「ZE」	エバスチン 10mg	素錠	白色	 直径：8.0mm 厚み：3.1mm 重量：200mg (ZE16、10)

添加物として、エバスチンOD錠5mg「ZE」はD-マンニトール、トウモロコシデンプン、カルメロース、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、ヒドロキシプロピルセルロース、タウマチン、香料及び三酸化鉄を、エバスチンOD錠10mg「ZE」はD-マンニトール、トウモロコシデンプン、カルメロース、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、ヒドロキシプロピルセルロース、タウマチン及び香料を含有する。

## 【効能・効果】

蕁麻疹  
 湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚痒症  
 アレルギー性鼻炎

## 【用法・用量】

通常、成人には、エバスチンとして1回5～10mgを1日1回経口投与する。  
 なお、年齢・症状により適宜増減する。

## 【使用上の注意】

- 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）  
 肝障害またはその既往歴のある患者〔肝機能異常があらわれるおそれがある。〕
- 重要な基本的注意
  - 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に注意させること。
  - 長期ステロイド療法を受けている患者で本剤投与によりステロイドの減量をはかる場合は、十分な管理下で徐々に行うこと。
  - 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。
  - 本剤は口腔内で崩壊するが、口腔粘膜からは吸収されないため、唾液または水で飲み込むこと。

## ※3. 相互作用

本剤は、主として代謝酵素CYP2J2及びCYP3A4で代謝される。

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エリスロマイシン	本剤の代謝物カレバスタチンの血漿中濃度が約2倍に上昇することが報告されている。	カレバスタチンの代謝が抑制されると考えられる。
イトラコナゾール	本剤の代謝物カレバスタチンの血漿中濃度が上昇することが報告されている。	
リファンピシン	本剤の代謝物カレバスタチンの血漿中濃度が低下することが報告されている。	カレバスタチンの代謝が促進されると考えられる。

## 4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

### (1) 重大な副作用（頻度不明）

- ショック、アナフィラキシー様症状：ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、喉頭浮腫等の症状が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、LDH、 $\gamma$ -GTP、Al-P、ビリルビンの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

### (2) 重大な副作用（頻度不明）

類薬（テルフェナジン等）で、QT延長、心室性不整脈（Torsades de pointesを含む）があらわれるとの報告がある。

### (3) その他の副作用

種類	頻度	頻度不明
過敏症 <sup>注)</sup>		発疹、浮腫、蕁麻疹
循環器		動悸、血圧上昇
精神神経系		眠気、倦怠感、頭痛、めまい、しびれ感、不眠
消化器		口渇、胃部不快感、嘔気・嘔吐、腹痛、鼻・口腔内乾燥、下痢、舌炎
肝臓		AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、LDH上昇、 $\gamma$ -GTP上昇、Al-P上昇、ビリルビン上昇
泌尿器		排尿障害、頻尿
その他		好酸球増多、胸部圧迫感、ほてり、体重増加、月経異常、脱毛、味覚異常、BUNの上昇、尿酸

注) このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

## 5. 高齢者への投与

1日1回5mgから投与するなど注意すること。〔一般に高齢者では生理機能が低下している。〕

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
- (2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。〔動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている。〕

7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児又は幼児に対する安全性は確立していない。〔使用経験が少ない。〕

8. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤はアレルギー皮膚反応を抑制するため、アレルギー皮膚反応検査を実施する前は、本剤を投与しないこと。

9. 適用上の注意

- (1) 薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。〔PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、さらには穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。〕
- (2) 服用時：本剤は舌の上のせ唾液を湿潤させ、唾液のみで服用可能である。また、水で服用することもできる。

【薬物動態】

1. 生物学的同等性試験<sup>1,2)</sup>

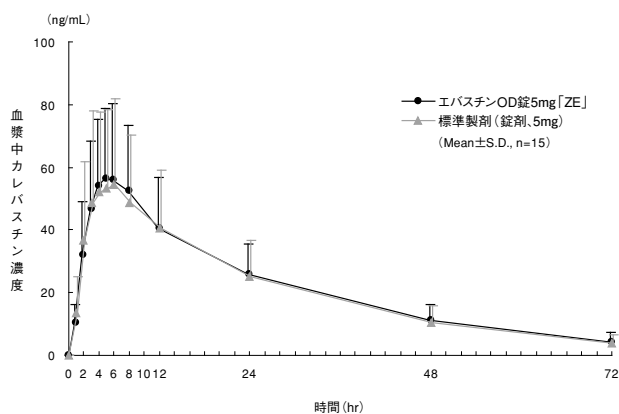
エバスタチンOD錠5mg「ZE」あるいはエバスタチンOD錠10mg「ZE」と各標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(エバスタチンとして5mgあるいは10mg)健康成人男子に絶食後、水あり及び水なし単回経口投与して血漿中カレバスタチン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)~log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

(1) エバスタチンOD錠5mg「ZE」

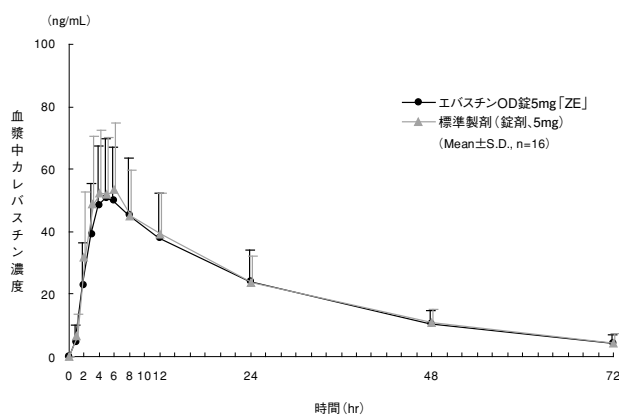
		判定パラメータ		参考パラメータ	
		AUC <sub>(0-72)</sub> (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
水あり投与	エバスタチンOD錠5mg「ZE」	1547.7 ± 611.9	61.0 ± 22.3	5.0 ± 1.5	19.6 ± 2.7
	標準製剤(錠剤, 5mg)	1504.4 ± 715.9	58.6 ± 29.9	5.6 ± 2.2	18.4 ± 3.5
水なし投与	エバスタチンOD錠5mg「ZE」	1418.6 ± 525.3	53.5 ± 17.4	4.7 ± 1.0	20.4 ± 8.1
	標準製剤(錠剤, 5mg)	1454.7 ± 497.2	57.3 ± 20.6	4.6 ± 1.3	19.3 ± 3.0

(水あり投与：Mean ± S.D., n=15)  
(水なし投与：Mean ± S.D., n=16)

① 水あり投与



② 水なし投与

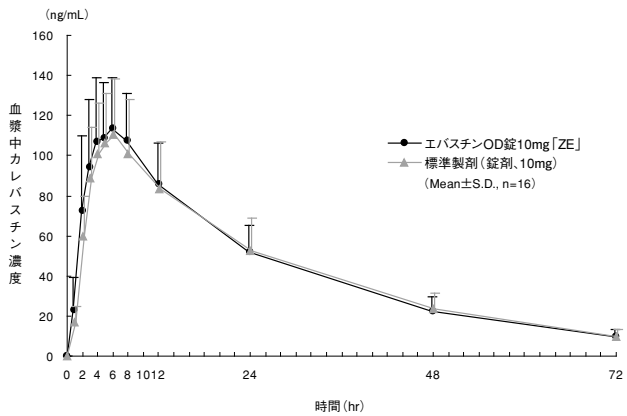


(2) エバスタチンOD錠10mg「ZE」

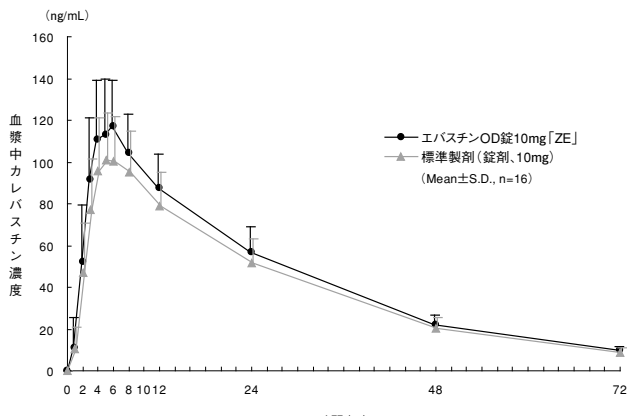
		判定パラメータ		参考パラメータ	
		AUC <sub>(0-72)</sub> (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
水あり投与	エバスタチンOD錠10mg「ZE」	3175.9 ± 750.2	118.0 ± 27.2	5.7 ± 2.3	19.0 ± 3.1
	標準製剤(錠剤, 10mg)	3139.4 ± 880.9	114.1 ± 28.2	5.7 ± 1.4	20.1 ± 3.0
水なし投与	エバスタチンOD錠10mg「ZE」	3233.9 ± 614.7	121.6 ± 25.2	5.4 ± 1.2	17.9 ± 2.1
	標準製剤(錠剤, 10mg)	2911.6 ± 603.9	105.2 ± 22.0	5.5 ± 1.3	18.3 ± 2.1

(Mean ± S.D., n=16)

① 水あり投与



② 水なし投与



血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2. 溶出挙動<sup>3)</sup>

エバスタチンOD錠5mg「ZE」及び同OD錠10mg「ZE」は、日本薬局方医薬品各条に定められたエバスタチン口腔内崩壊錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

【薬効薬理】

作用機序<sup>4,5)</sup>

エバスタチンはヒスタミンH<sub>1</sub>受容体拮抗薬の第二世代ピペリジン類に分類される。エバスタチンの活性代謝物であるカレバスタチンは標的細胞のH<sub>1</sub>受容体と結合することにより、ヒスタミンが受容体に結合するのを阻止し、ヒスタミンの作用を抑制する(ヒスタミンH<sub>1</sub>受容体拮抗作用)。また、マスト細胞や好塩基球からのメディエーター遊離抑制作用やヒスタミン誘発皮膚反応の抑制が認められている。第二世代ピペリジン類は中枢神経系に移行しにくい。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：エバスタチン(Ebastine)(JAN)

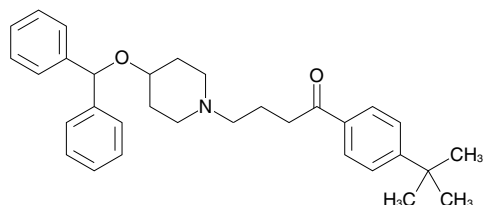
化学名：1-[4-(1,1-Dimethylethyl)phenyl]-4-[4-

(diphenylmethoxy)piperidin-1-yl]butan-1-one

分子式：C<sub>32</sub>H<sub>39</sub>NO<sub>2</sub>

分子量：469.66

構造式：



性状：エバスタチンは白色の結晶又は結晶性の粉末である。酢酸(100)に溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。光によって徐々に帯黄白色となる。

融点：84～87℃

### 【取扱い上の注意】

#### ・安定性試験<sup>6)</sup>

PTP包装(PTPシートをアルミピロー包装)したものを用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6箇月)の結果、エバスタチンOD錠5mg「ZE」及び同OD錠10mg「ZE」は通常の市場流通下においていずれも3年間安定であることが推測された。

### 【包装】

エバスタチンOD錠5mg「ZE」 PTP：100錠、500錠

エバスタチンOD錠10mg「ZE」 PTP：100錠、500錠


### 【主要文献】


- 1) 水山 和之ら：新薬と臨床, **57**, 1212(2008)
- 2) 水山 和之ら：新薬と臨床, **57**, 1220(2008)
- 3) 全星薬品工業(株)：溶出試験に関する資料(社内資料)
- 4) 今日の治療薬(南江堂), 304(2007)
- 5) Skidgel, R. A. and Erdös, E. G. : グッドマン・ギルマン薬理書 第11版(廣川書店), 782(2007)
- 6) 全星薬品工業(株)：安定性試験に関する資料(社内資料)

### ※※【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

全星薬品工業株式会社 医薬情報部  
〒590-0024 堺市堺区向陵中町 2-4-12  
☎ 0120-189-228  
TEL 072-250-6651  
FAX 072-250-4646

発売元  
 **全星薬品株式会社**  
堺市堺区向陵中町2-4-12

製造販売元  
 **全星薬品工業株式会社**  
堺市堺区向陵中町2-4-12